

2018 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
教育学部 子ども発達学科	教授	柿原 聖治
最終学歴	学 位	専門分野
広島大学大学院 教育学研究科 単位取得満期退学	教育学修士	理科教育、算数教育

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

一人ひとりの学生を大切に、親身になって寄り添い、学生の学業成績の向上に努める。
建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」に沿うような人材の育成に努める。
教員採用試験に1人でも多く合格させる。

(計画)

授業では、教師によるデモンストレーションではなく、学生一人ひとりが自分たちで実験や制作活動ができるように、教材や道具を学生の数だけ準備し、学生が自由に学習できる環境を作る。
安全に配慮し、学生の主体性を引き出す。
空き時間にはできるだけ研究室を開放し、教員採用試験の勉強会を行う。試験対策で困っている学生をできるだけ多く救う。

○担当科目（前期・後期）

（前期）理科、幼児の科学、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）生活、生活科教育法、理科教育法、東邦プロジェクトA、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、卒業研究

○教育方法の実践

おもちゃ作り等で、コンパスを多用した授業を計画し、実践した。頭だけで考えるのではなく、手を使った具体的な活動を多く取り入れた教育方法を実践した。

○作成した教科書・教材

なし

○自己評価

幼児教育で用いられるおもちゃ作り、季節の遊びや活動などの見識を深めることができたことは成果だと言える。

また、全国の小学校教員採用試験の過去問をほぼすべて入手し、理数の問題を解いて出題傾向を分析した。それを学生に還元することができ、それなりの手応えを感じた。しかし、まだ十分とは言えず、学生の成績向上のために、更なる研鑽を積む必要があると思った。

II 研究活動

○研究課題

理科の実験教材づくりと算数的活動の開発

○目標・計画

(目標)

理科の授業が楽しくなるような実験を取り上げ、その教材開発を行う。算数も、理科と同様、道具を使った活動を中心とした授業を考える。

(計画)

理科も算数も、頭だけで考えるのではなく、道具を使って視覚的・感覚的に理解させる教材開発を行う。折り紙の利用やコンパスを使った作図などを多く取り入れ、楽しい算数・理科にする。

○2011年4月から2019年3月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

- ・今津孝次郎、西崎有多子、白井克尚、中島弘道、新實広記、伊藤龍仁、柿原聖治、伊藤数馬、『教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の実践研究』、2019年、唯学書房

(学術論文)

- ・柿原聖治「錯覚や意外性を取り入れた図形の指導—小学校の数学的活動—」、『東邦学誌』、第47巻 第2号、p. 33-43、2018
- ・柿原聖治「作図によるルーローの三角形、正六角形づくり—算数的活動—」、『東邦学誌』、第47巻 第1号、pp. 49-56、2018
- ・柿原聖治「パズル作りを取り入れた算数的活動」東邦学誌 第46巻 第2号、p. 105-112、2017
- ・柿原聖治「正四角錐、正四面体を折り紙で作る方法とその利用」東邦学誌 第46巻 第1号、p. 119-126、2017
- ・柿原聖治「正三角形を折り紙で作る方法の実践的研究」東邦学誌 第45巻 第2号、p. 117-124、2016
- ・柿原聖治「燃焼の仕組みを理解させる—火おこし器で発火させる方法を通して—」東邦学誌 第45巻 第1号、p. 73-78、2016
- ・柿原聖治「化合の実験材料としてのカルシウムの活用」東邦学誌、第44巻 第2号、p. 111-115、2015
- ・柿原聖治「ポンプを利用した日用品のモデル作り」東邦学誌、第44巻 第1号、p. 139-149、2015
- ・今津孝次郎、新實広記、西崎有多子、柿原聖治、伊藤龍仁、白井克尚「教員と保育士の養成における「サービス・ラーニング」の試み」東邦学誌、第44巻 第1号、p. 211-231、2015
- ・柿原聖治「気体の分子運動に関するモデル実験と授業展開」東邦学誌、第43巻 第2号、p. 105-116、2014
- ・柿原聖治「ヘアの装置につなげる授業」物理教育、第60巻 第4号、p. 264-265、2012
- ・柿原聖治「液体の分子運動モデルの開発と授業展開」物理教育 第60巻 第3号、p. 179-183、2012
- ・柿原聖治「教訓茶碗から発展させた授業」物理教育、第60巻 第1号、27-28、2012
- ・柿原聖治「灯油ポンプ作り—その仕組み—」物理教育、第59巻 第3号、194-195、2011
- ・柿原聖治「基本的な用語、実験に関する大学生の誤解」科学教育研究、第35巻 3号、287-288、2011
- ・柿原聖治「浮力と液体の密度測定—その指導法—」物理教育、第59巻 第4号、267-268、2011
- ・柿原聖治「ヘアの装置による水溶液の濃度測定」平成22年度 東レ理科教育賞 受賞作品集、p. 22-26、2011

(学会発表)

(特許)

(その他)

- ・月刊誌『理科の教育』各号の目次を英語に翻訳

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

科学研究費補助金に申請したが、不可であった。

○所属学会

日本理科教育学会、日本物理教育学会

○自己評価

身近なものを科学的・数学的に調べ、教材として活用する方法を研究した。それを論文としてまとめることができた。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

（目標）

大学の発展のために、自ら努力して貢献する。信頼して事を任せられた職務は、全力を挙げてまっとうする。大学運営がスムーズになるように努力を怠らない。

（計画）

教育は天に事うる職分なので、与えられた校務は真面目に取り組む。

○学内委員等

地域連携委員会委員、学術情報センター運営委員会委員、幼小教職委員会委員、保育士養成課程委員会委員

○自己評価

学内の運営方針・慣行に沿い、それなりに努めたが、まだまだ貢献できる余地があると思うので、努力したい。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

（目標）

教育現場に求められているニーズを読み取る。それに応えるには何ができるかを考え、できることから実践していく。学生がサービス・ラーニングができる素地を増やしていく。

（計画）

今年度「東邦プロジェクト」を担当するので、小学校や保育・幼稚園などに足を運び、教育現場と連携を図る。

大学連携講座を日進市と行っているので、今年も理科実験・算数的活動について講座を持つ。

○学会活動等

なし

○地域連携・社会貢献等

主に北一社小学校でのサービス・ラーニングの支援を行った。日進市と大学連携講座をもち、11月から4回、土曜日に実験を伴った講座を行った。

瀬戸北総合高校で模擬授業を行った。

○自己評価

学生を地域の学校にサービス・ラーニングの場として送り出し、いい勉強になった。また、大学連携講座を日進市と行い、小学生から社会人まで幅広く交流することができ、有意義だった。

Ⅴ その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

なし

VI 総括

実習先の保育所や幼稚園などに行って、現場の先生方と話を交わすことで、現場の様子をよく知ることができた。講義や研究の中で、生かしていきたいと思う。

「東邦プロジェクト」を初めて担当した。その発表会に参画し、それなりの手応えを感じた。また、サービス・ラーニングに関する叢書を一部執筆して形のあるものにした。地域連携の仕方を他の先生方と一緒に、さらに模索していきたい。

以 上